

②まちなみ整備（3、石碑・句碑の活用・4、川崎宿まちなみの整備・5、楽しく歩こう川崎宿）

### 3 石碑・句碑の活用

主旨	1 川崎宿の街道筋にある歌碑や句碑をPRし、観光資源として活用していきます。		2 とくに八丁畷駅前にある芭蕉の句碑は、地元の有志によって管理されており、今後も芭蕉ゾーンの目玉としてアピールし、全国の芭蕉ファンが立ち寄る名所を目指します。				
	提案の内容	まちの動きや 取組み実績 (H15～22)	実施時期		実施主体		
提案内容			短期 3年以内	中・長期 (5年以上)	2023	地元	行政との協働
	<b>1 芭蕉句碑の保全・活用</b> 現在、八丁畷駅前にある芭蕉の句碑を、芭蕉ゾーンのシンボルと位置づけ、保全・活用に努めます。 今後も地元有志による管理を支援する他、芭蕉に関連する商品の開発・販売、催し物の開催など、全国の芭蕉ファンが訪れる名所となるよう、活用を図ります。		○		○	○	○
	<b>2 歌碑めぐりコースの設定</b> 芭蕉や正岡子規の句碑、佐藤惣之助詩碑など、既存の歌碑や句碑にスポットをあて、それらを巡る「歌碑めぐりコース」を設定します。			○		○	○
	<b>3 新たな歌碑の整備</b> 川崎宿と関連のある歌人、詩人の歌碑・句碑の他、「港町13番地」など、川崎にゆかりのある句や詩、歌詞をピックアップし、新たな歌碑を整備します。			○		○	○
	<b>4 歌イベントの開催</b> 川崎宿や川崎区に関連する歌詞や句をテーマとしたイベントを開催します。 「歌碑めぐりコース」上の各ポイントに、投句ポストを設置し、優秀な作品を紹介したり、朗読会、句会など、俳句や詩の創作、鑑賞を楽しむイベントを開催します。			○	○	○	
<b>5 歌グッズの開発</b> 川崎にまつわる歌や俳句のしおりなど、歌グッズを開発します。シリーズ化し、その内容に関連する場所で期間限定で配布するなど、集める喜びを演出します。			○	○	○	○	

**□投句ポストの設置**

・平成 18 年度に、稲毛神社境内に投句ポスト第 1 号を設置しました。

**□芭蕉ポケットパークの整備**

・平成 16 年度、日進町高齢者住宅に併設し、芭蕉ポケットパークを整備しました。平成 17 年度には、ポケットパーク内に設置されている自動販売機が、準ロケーション大賞 (※) を受賞しました。

※ロケーション大賞：平成 3 年に創設。日本自動販売機工業会、日本自動販売協会等が主催し、デザイン・色や設置方法、使いやすさなどに創意工夫を凝らし、周囲の景観や雰囲気と調和し、また、楽しさを醸し出している自販機ロケーションに授与される。



**コラム1 市場一里塚(横浜市鶴見区市場下町4)**

慶長 9 (1604) 年、江戸幕府は日本橋を起点として、日本橋から一里 (約 4km) 毎に街道の両側に五間四方 (9m 四方) の塚を築造し、その上には榎を植えました。江戸時代以前にも、一里塚は存在したが全国的に整備されたのは江戸時代に入ってからです。市場の一里塚は日本橋から数えて 5 番目 (芝・金杉橋、品川・ハツ山、大森、六郷、市場) にあたります。一里塚は街道を挟んだ両側に設けられていたそうですが、明治 9 (1877) 年、地租改正にあたり払い下げられ、左側の塚が現存しています。昭和初期まで塚の上には榎の大木が繁茂していました。昭和 8 (1933) 年 6 月「武州橋樹郡市場村一里塚 (添田担書) の碑が建立されました。

平成元 (1989) 年、横浜市地域文化財として登録されました。



(写真：市場一里塚 鶴見みどころ 80 より)

## 4 川崎宿まちなみの整備

主旨	<p>1 東海道川崎宿の沿線に、現在のまちなみと調和をとりながら、宿場町としての風格や趣のなるまちなみを形成します。</p> <p>2 宿場町として当時の面影を残す事物が少ない中で、宿場のイメージが想起できる意匠の取入れ、地名の復活等に取り組めます。</p> <p>3 東海道川崎宿を訪れる人の目を楽しませる四季折々の花や樹木を植栽します。また、カリン並木を有効に活用します。</p>						
	提案の内容	まちの動きや 取り組み実績 (H15～22)	実施時期	実施主体			
提案内容			短期 3年以内	中・長期 (5年以上)	2023	地元	行政との協働
	<p><b>1 シャッター浮世絵ギャラリーの整備と活用</b> 沿線に描かれたシャッター浮世絵ギャラリーを有効に活用するために、毎年一枚ずつ整備し、浮世絵スタンプとスタンプラリーの開催、浮世絵ギャラリーマップの作成などを行います。</p> <p>また、店が開いているときでもシャッター浮世絵を楽しめるよう、協力店の入口等に浮世絵写真を展示するよう働きかけます。</p>	<p>・シャッター絵 18枚設置</p>	○	○	○	○	○
	<p><b>2 ニヶ領用水の顕彰</b> かつて東海道川崎宿を流れ、現在は蓋崖、暗渠化などによって見ることのできないニヶ領用水を顕彰するために、案内板や解説板の設置等を行います。</p>	<p>・区内ニヶ領用水地図の作成 ・講座、フィールドワークの開催</p>		○		○	○
	<p><b>3 フラッグ・幟作戦</b> まちなみを、川崎宿をイメージした色とりどりのフラッグや幟、日除け暖簾などで飾り、街道沿いに賑わいを出します。</p>	<p>・イベント時にフラッグの設置</p>	○			○	
	<p><b>4 旧町名看板の設置・地図の作成</b> 見染町、上並木など昔の町名や由来を書いた看板、解説板を設置します。また、旧町名の地図を作成します。</p>			○	○	○	
<p><b>5 江戸意匠の取入れ</b> ベンチ、水飲み場等公共物を整備する際には、「東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドライン」に沿って江戸意匠を取り入れるよう協力をお願いします。</p> <p>また、商店の建て替えやマンション等の建設の際には、木材や白壁を使用するなど、江戸意匠に配慮するよう協力をお願いします。</p>	<p>・「東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドライン」の作成 ・江戸文字風看板(川崎小学校)の設置</p>	○		○	○	○	

<p><b>6 蔵の保存</b></p> <p>川崎宿内に残っている蔵は、個人の所有であり、区民の意思で保存するのは困難です。しかし、蔵は川崎宿のまちなみを形成する上で貴重な資源であり、今後も所有者と一緒に保存・活用の方法を検討します。</p>			○	○	○	
<p><b>7 昔風郵便ポストの活用</b></p> <p>川崎小学校正門前と砂子の里資料館前に設置されている昔風の郵便ポストは、市内でも珍しい丸型ポストであり、より多くの人に知ってもらうために小学生による絵画・絵手紙展の開催など、活用を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸型ポスト設置(2か所)</li> <li>・小型印の作成(平成17年度)</li> <li>・丸型ポスト写真展開催(平成19年度)</li> </ul>	○		○	○	
<p><b>8 花街道の整備</b></p> <p>東海道川崎宿を彩り豊かな、四季折々の花が楽しめる花街道として整備します。商店や事業所前へのフラワーポットの設置、近隣の公園花壇での花の植栽に取り組むよう働きかけます。</p>		○			○	
<p><b>9 カリン並木の活用</b></p> <p>下並木で開催されているカリン祭を大いにアピールし、より多くの人々が訪れるように盛り上げます。</p> <p>また、カリン飴、カリン酒など、カリンに関する商品を開発し販売するよう働きかけます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫祭に参加</li> </ul>		○		○	
<p><b>10 松の植栽</b></p> <p>上並木(現在の日進町)、下並木という地名にその名残が見られる八丁畷周辺に、松並木をしのび、宿場の入口や近隣の公園に松を植栽するよう働きかけます。</p>			○			○

**□シャッター絵ギャラリーの整備**

・平成 17 年度の第一号（やよい鮎）以後、平成 22 年度までに 18 枚の「シャッター絵」が設置されました。



**□江戸意匠の取入れ**

・川崎小学校正門に、木製、毛筆文字の看板を設置しました。  
 ・田中本陣跡、佐藤本陣跡に、浮世絵等を盛り込んだ解説板を設置しました。  
 ・京口跡に、川崎宿総合案内板を設置するとともに、関札を復元しました。  
 ・その他、川崎宿周辺の案内板、誘導サイン等は、毛筆風の文字や浮世絵を盛り込むなど、素材やデザインを工夫しています。



**□丸型ポストの復活**

・平成 16 年度に川崎小学校正門前、平成 17 年度に砂子の里資料館前に、丸型ポストを設置しました。  
 ・平成 17 年度に、丸型ポスト復活を記念して、小型印を作成しました。  
 ・平成 19 年度に、川崎中央郵便局で丸型ポスト写真展示を開催しました。



**□東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドラインの作成(作成はまちづくり局)**

・平成 19 年度に、東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドラインを作成しました。

**□二ヶ領用水地図の作成**

・平成 21 年度に、二ヶ領用水 400 年を記念し、川崎区内の二ヶ領用水地図を作成しました。  
 ・二ヶ領用水 400 周年記念講座、フィールドワークの開催

**□下並木「カリン収穫祭」への参加**

下並木町内会が開催する「カリン収穫祭」に参加しました。

## 5 楽しく歩こう川崎宿

主旨	<p>1 子どもからお年寄りまで、誰もが安全に、安心して、楽しく川崎宿を歩ける仕組みや仕掛けをつくります。</p> <p>2 初めて川崎宿を訪れた人でも、迷うことのない案内サインシステムや地図情報システムの整備を提案します。</p>						
	提案の内容	まちの動きや 取組み実績 (H15～22)	実施時期		実施主体		
提案内容			短期 3年以内	中・長期 (5年以上)	2023	地元	行政との協働
	<p><b>1 解説板・案内板の設置</b></p> <p>資源の解説板や資源までのルートを示す案内板を設置します。</p> <p>解説板のない資源については川崎宿のまちなみにふさわしい素材やデザインの解説板を新たに設置します。また、既存の解説板の中には老朽化したものや、さまざまな主体が設置しているためデザイン等が不統一なものがあり、今後はこれらを整理、統一します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道沿いに各種解説板・案内板の設置</li> <li>・川崎駅東口整備に合わせた案内板の設置（平成22年度）</li> <li>・川崎駅観光案内所のオープン</li> </ul>	○	○	○	○	○
	<p><b>2 横丁愛称募集</b></p> <p>街道筋の脇道や路地の中には、名前のないものがあり、川崎宿を訪れた人に道を教える際、不便を感じる場合があります。そこで、横丁の愛称を公募し、愛称を一般の人たちに広く使ってもらうことで、横丁に親しみを持つとともに、わかりやすい道案内をできるようにします。</p>			○		○	
	<p><b>3 安心して歩ける道づくり</b></p> <p>安全に、安心して歩ける道づくりを目指して、歩道上の看板、サイン、ゴミ箱等を整理・撤去します。また通行の邪魔になる街路樹を見直します。</p> <p>将来的には、一方通行などによる歩道部分の拡幅やカラー舗装などを視野に入れた安全な歩行空間づくりが出来ないか検討します。</p> <p>快適に歩くためには、トイレの設置が不可欠であり、公共施設等への整備を含め、商店等へのトイレ使用の協力を呼びかけます。</p>				○	○	○

こ  
れ  
ま  
で  
の  
主  
な  
取  
組  
み

### □案内板の設置

街道沿いの各所に、案内板・解説板を設置しました。

- ・OKストア前史跡案内板の設置（平成16年度）
- ・京入口案内板の設置（平成17年度）
- ・八丁畷駅前団地敷地内「東海道」表示の設置（平成18年度）
- ・佐藤本陣案内板の設置（平成19年度）
- ・田中本陣案内板の設置（平成19年度）
- ・京口総合案内板の設置と関札の復元（平成20年度）
- ・八丁畷駅前に川崎宿総合案内板を設置（平成22年度）



## コラム2 「三角おにぎり発祥の地」伝説

江戸時代、8代将軍に就任するため紀州（現在の和歌山県）から江戸に向かっていた徳川吉宗一行が川崎宿に宿泊した際、田中本陣の主である田中休愚が、吉宗一行の食事を賄うため「白米一升を飯に炊き、川崎に持参するものは、2升分の値を取らす」というお触れを近在の農民へ回しました。宿場にはたちまち白米のご飯が集まり、これをおにぎりにして行列の人々の空腹を満たすことが出来ました。

吉宗は、当意即妙の措置にいたく感心し、その後代々の紀州の殿様が川崎宿を通るときには決まってその従者に握り飯を出させるようになったといわれています。その際に今まで丸く握っていたおにぎりを、三角形に握り、丸い盆に3つずつ並べて、これを徳川家の葵の御紋に見立てたことから「御紋むすび」と呼ばれ、以後300年にわたり川崎宿の名物となりました。このことから、川崎宿が三角おにぎり発祥の地といわれています。

